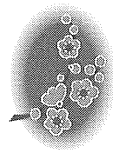


議会だより



12月定例会

第466回定例会が、招集され12月19日、20日の2日間の日程で開催されました。

今回提出された議案は、補正予算案7件、一般事案4件で慎重審議の結果、いずれも満場一致で可決されました。

■主な補正予算

- ・先灘地区海岸環境整備事業
ホテル側へ海岸線整備
3、000万円
- ・中学校エコ改修追加工事
風力発電、屋体トイレ化改修
2、038万円
- ・第四次海士町総合振興計画
印刷製本費
120万円
- ・島前内航船負担金
燃料高騰に伴うもの
161万円
- ・行政情報管理委託料
基幹システム機器保守委託料
347万円

- ・地域インターネット機器保守委託料
315万円
- ・後期高齢者医療特別会計繰出金
医療費の伸びに伴うもの
408万円
- ・国保特別会計繰出金
640万円
- ・強い水産業づくり交付金事業
なまこ増殖関係
1、995万円
- ・がんばる地域応援総合事業
広域でのいわがき振興を図るもの
200万円
- ・農業総務費一般職員1名増
202万円
- ・菱浦2号集落道用地費
200万円
- ・定住促進賃貸住宅補助金
県からの補助金をそのまま勝部表装(有)に補助
987万円
- ・景観づくり基礎調査委託料
村上助九郎邸周辺の調査
57億6、179万円

- ・菱浦臨港道路車線規制工事
158万円
- ・保険給付費の退職者分療養給付費負担金
850万円
- ・保険給付費の一般分高額療養費
350万円
- ・保険給付費の退職者分高額療養費
300万円
- ・保険財政共同安定化事業拠出金
512万円
- ・医薬品購入費
589万円
- ・診療所外周舗装工事
350万円
- ・簡易水道メーター取替工事
△301万円
- ・後期高齢者医療広域連合納付金医療給付費負担金
371万円

補正後の予算総額

57億6、179万円

▼海士町の道路線の廃止

中学校下西側から諏訪湾の県道に至る道路で県道から南約350mの三叉路地点までを廃止する。御波トンネルから西

の墓地の東側を通って諏訪湾までの道路が一般農道になるため重複部分を廃止するものである。

▼第四次海士町総合振興計画について

平成21年度から10年間の海士町の振興計画を笑顔あふれるまちづくりを追求し「島の幸福論」をテーマに策定されています。

今回は公募で募った約60名が「海士町の未来をつくる会」を結成して熱心にワークショップを重ね「海士町に住んでよかった」「海士町に住みたい」と実感できるまちづくりに向けた振興計画で、基本構想、資本計画、実施計画によって構成されています。近日中に振興計画が印刷製本され、各戸に配布されます。

住民総参加で明るく豊かで活力に溢れたまちづくりに取り組みましょう。

▼海士町辺地に係る公共的施設の総合整備計画について

既存計画に計上されていないかった産業の振興施設、道路施設等の計画変更を行うもの

▼海士町の過疎地域自立促進

計画の変更について

既存計画に計上されていないかった産業の振興施設、観光レクリエーション施設等の計画変更を行うもの

決算認定報告

平成19年海士町一般会計歳入歳出決算など7つの会計決算の認定審査は、9月定例会でそれぞれの所管の総務厚生産業建設常任委員会に付託され、継続審査となっていた。4日間の審査、質疑を執行部の出席を求めて行いその結果、給与カットなど厳しい財政環境の中、「守り」と「攻め」の財政運営の中から基金において約5、000万円の増加ができたことは努力の成果と評価したい。

しかし、監査委員の監査意見書における指導事項の改善点については誠実に実行すること特に未収金の抑制対策と滞納額の回収対策についても実効性のある改善策を講じ、4半期毎に結果を報告することなどの意見を付し、全会一致で認定することとした。

〔財政援助団体監査報告〕

平成19年海士町財政援助団体3社2団体の監査を行った。結果、2社1団体については、燃油費等の高騰の影響を受けいずれも厳しい状況の下、経営努力をされているが、一層の努力を求めている。「ふるさと海士」の根幹をなすC A S部門において課題も多いが、一日も早く海士町の支援から脱却し自立運営ができる会社へ成長する更なる努力が求められる。



整備中の先灘地区海水浴場（7月供用開始予定）

〈議会用語豆辞典〉

決算認定とは・・・

決算は、一会計年度、すなわち毎年4月1日から翌年3月31日までの歳入歳出予算の執行実績を表すもので、5月の出納閉鎖後、決算書は出納室がつくって町長に提出し、町長は監査委員の審査意見を付け、次年度の当初予算を審議する会議までに、議会の認定に付さなければならぬことになっています。



決算認定は、収支計算が正しいか、予算の執行は適切であったかなどを確認し、決算に対する議会の意思を明らかにするもので、町における今後の財政運営の指針となります。

しかし、議会が決算を認定しない場合でも、その法的効力には影響なく、町長等の政治的または道義的責任の問題が残るにとどまります。本町の場合は、例年、9月定例会に上程され、常任委員会で慎重審議されたのち、次の12月定例会で結論が出されています。

町政に問う

一般質問



波多紀昭 議員

山内町政の来た道・進む道は

問 波多議員

山内町長は、平成14年5月に町政運営の舵取りに就任されてから、はや2期目の折り返し地点。この間に及ぶ山内町長の歩んできた道程を振り返り、これから進むべく方向性について伺いたい。

「小さな島の挑戦」最後尾から最先端へ」を旗印に、「守り」と「攻め」の視点で「海士再生」のまちづくりに、厳しい行財政改革と活発なまちづくりが両立し、着実な成果を挙げてきたのではないかとこの私が私の率直な感想である。

そこで、「守り」の内なる改

革、人件費削減等の行財政改革の断行、並びに改革と連動する「攻め」の地域再生戦略、つまり島に産業を創り、島に雇用の場を増やし、外貨を獲得して、島を活性化させるという海士再生がうまく進んだ要因をどのように、実証的検証をしているのか。また、一般住民からこうした改革やまちづくりの取り組みがどのようにに評価されているかという点について伺いたい。

答 町長

平成21年度からスタートする第4次海士町総合振興計画を今議会に上程しているところであるが、振り返ってみれば前計画の10年の内7年を自らが担当したことになる。任期は余すところ1年余だ。

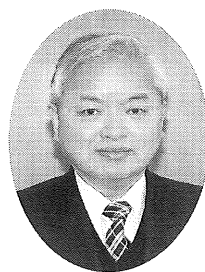
今、私自身改めて、町政の検証作業といった具体的な整理分析はしていないが、キーワードになっっているのは、「海士再生」。自立への道を選択し、肅々と進めているところだ。平成15年覚悟の単独町政を決断。その直後に、町税の一年分に相当する地方交付税の突

然かつ大幅な削減（地財ショック）で、緊急事態に直面。当時の財政シミュレーションでは、平成18年に「赤字団体」に、平成20年度には「財政再建団体」になることが予想された。そこで、島の生き残りをかけた「海士町自立促進プラン」を策定し、議員の言われるように行財政改革によって、「守り」を固める一方で「攻め」の方策として新たな産業創出を強力に推進しようという両面作戦を現在進行形で鋭意進めているところだ。

その結果、平成17年度以降は、基金を積立てるなど黒字決算となり、収支バランスは改善基調に戻った。職員の給料カットも毎年徐々に復元を実施するなど財政面においてはトンネルを抜けたと見ています。

一方、生き残るための「攻め」の戦略として、一点突破型産業振興を目指し、そのキーワードを「海」「潮風」「塩」の3本柱に、地域資源を有効活用し、異なるもの同士をつなぎ究極のふるさと振興を目指し取り組んでいるところだ。今後ともこの路線を強力に

推進し、着実に数字を出し、本物にしていくことが残された任期の責務だと自覚している。



花岡美近 議員

環境美化条例の現状と今後の対策は

問 花岡議員

条例が制定されてから4年8ヶ月が経過した。条例に基づき海士町環境美化推進協議会が設置され、6月を環境美化推進月間、6月5日を環境美化の日に設定し取り組んでいることは承知している。

また、環境を良くする会の活動やゴミを拾おうデーを設定し注意を喚起しても依然としてゴミや空き缶、空きビン、車輛等の産業廃棄物の不法投棄が散見されている。この現状を踏まえどのような対策を実施したのか伺いたい。

答 町長

条例では、指導、措置命令最終的には氏名公表という対

応が規定されているが、条例施行から現在まで措置命令が1件ある。氏名公表まで至っていない。

車輛放置については、廃棄物処理法や環境美化条例や漁港港湾の管理条例に基づき文書や口頭で撤去を指導している。

問 花岡議員

私が質問してから4年くらいになるが、減ればよいが段々増えているような気がする。推進員の巡回や担当課の見まわりを実施してもらいたい。

答 町長

議員の意見は素直に受けたいと思う。監視を増やすことも大事かと思うが同時に啓発運動をイベントや行事をとらえて環境ということについて考えるような活動を実施すべきだと思っている。今後具体的に何らかの形でより一歩進むようにしていきたい。



菱浦港の駐車場の管理は

問 花岡議員

駐車場の現状は、管理ではなく放任状態と思われる。ゼブラゾーンといつて横断歩道で斜めに白線が引かれた部分があるが、そこに堂々と駐車しているため、車椅子の利用者が通行できないことがある。港に近い便利な場所に1ヶ月1回か2回しか来られない人が占用しているため、駐車スペースがなく本町の人が右往左往している。別の場所を指定したらどうか。菱浦港には、障害者用駐車場が設置されていない。近日中に設置すると伺っているが、多角的な視点にたつて問題点を発掘しながら徹底した管理を望みたい。その他の公共施設の駐車場についても、点検整備を行い障害者や高齢者が安全で安心して利用できるよう配慮してほしい。

答 町長

福祉の花岡議員にいつもこの点について再三言われており本当に心苦しく思う。ゼブ

ラゾーンの駐車とか常時駐車、商売の方等、指摘があったように、別の駐車場に置くということも一つの方法かと思う。

駐車場をこれから作るということは考えられない。どうしたら利用しやすいのか車を持つている人が知恵やアイディアを出していただきたい。妊婦さんや身体障害者等については、是非早く確保したいと思っているので少し時間をいただきたい。

整備したキンニャモニャセン
ター前の駐車場ゼブラゾーン
をなくし、駐車禁止場所にコー
ンを置いていきます。



隠岐広域連合議会報告

波多 紀昭
寺下 雅人

隠岐広域連合議会は、2月5日に平成21年第1回定例会が開催された。

冒頭に広域連合長の施政方針が行われ、島前病院は看護師を含む医療スタッフの応募がなく、新規採用者は皆無の状況であるうえ、今年度に2名の看護師の退職者があり、このままでは44床の病床維持が困難な状況が生じ、大幅な入院診療報酬の減収という危機的な状況に陥るとして、これを回避するため、全力を挙げ看護師確保に取り組み方針が示された。当面の危機回避策として隠岐病院からの看護師派遣を行うため、職員組合側と鋭意折衝している現状が報告された。

また、島前地区の訪問リハビリの充実を図るため、理学療法士、作業療法士を3名体制にする方針も示された。

隠岐病院では、新病院建設の基本設計に着手、旧杉の学園の撤去、進入路の橋梁整

備、電子カルテ導入を本格化していくとしており、病院経営においては医師数の減少傾向の中、処遇改善や人事考課制度により、診察能力の推進と定着を図りながら、不足診療科の医師招聘を行っていく。

また、消防職員定数を1名増員する改正、消防賞じゅつ金基金条例の廃止、長期継続契約を締結できる条例の制定が提案された。

補正予算の主なものは、島前病院及び隠岐病院の新型インフルエンザ対策として、県の補助を受けて医療機器整備や備蓄等の必要な対策を講じる対応や、一般財源の特別財源への組み替え等、構成団体負担金の軽減措置、及び決算見込みによる補正であり、総額7、031万4千円の減額補正。また構成団体負担金は4、504万4千円の減額となった。

条例改正案では、隠岐病院の現行診療科に腎臓内科と救急科を新設し14診療科とし、

歯科を歯科口腔外科に改称する。新設する腎臓内科は透析を泌尿器科から分離し、複数医師で透析治療を担当するためのものである。救急科は担当医師を配置した24時間体制による救命救急医療の位置づけを明確化するためのものがあり、歯科口腔外科はインプラントや矯正の高度医療を提

供するための標榜の改正である。

また、消防職員定数を1名増員する改正、消防賞じゅつ金基金条例の廃止、長期継続契約を締結できる条例の制定が提案された。

補正予算の主なものは、島前病院及び隠岐病院の新型インフルエンザ対策として、県の補助を受けて医療機器整備や備蓄等の必要な対策を講じる対応や、一般財源の特別財源への組み替え等、構成団体負担金の軽減措置、及び決算見込みによる補正であり、総額7、031万4千円の減額補正。また構成団体負担金は4、504万4千円の減額となった。

平成21年度当初予算の歳出予算規模は、介護保険事業特別会計を除き、47億8、586万6千円で、前年度当初予算より3、710万円余の増額予算であり、率にして0.8%増となった。介護保険事業特別会計を除く構成団体負担金総額は、15億1、561万6千円であり、前年度より1億6、365万8千円の増と

なった。これは新隠岐病院の建設にかかる負担の増加によるものである。

事業別の予算収支では、島前病院は事業収支を18%減額し、事業経費は17%減額の7億3、000万円余が計上され、実質収支は2、140万円余の赤字予算となった。

隠岐病院事業は事業収益を1.5%減額し、事業経費は1.3%減額の23億1、000万円余を計上、実質収支は1、960万円余の赤字予算となった。隠岐病院では、新病院建設費として、2億3、600万円余を計上し、その内容は基本設計費、実施設計費、橋梁整備、電子カルテ整備等である。病院設計はプロポーザル方式で実施し、新年度初期に業者決定を行う予定。

平成21年2月定例会に提案された18議案は、執行部の詳細説明を受けたうえで、慎重審議の結果、いずれも原案の通り可決された。

(文責 波多紀昭)

議長の動向

1月

平成21年海士町消防団出初め式(隠岐島前高校屋体) 第一川崎屋交流事業

(東京都)

隠岐交通問題対策協議会

(西ノ島町)

全員協議会・政調会

(海士町役場)

につけい子育て支援大賞授賞式

(東京都)

2月

全国離島振興市町村議会理事會及び定期総会(東京都) 6年生社会科授業

(海士小・福井小)

第38回海士町立春式

(隠岐開発総合センター)

細田博之幹事長就任祝い

(松江市)

福井小・海士小6年生合同学習(子ども議会中間発表会)

(海士小)

第47回海士町議会臨時会

(海士町役場)

「竹島の日」記念行事・隠岐島正副議長・局長合同議

(松江市)

会 県町村議会議長会定期総会

(松江市)

海士町子ども議会

(海士町役場)

編集後記

■厳しい経済・社会情勢のもとの新年を迎えました。米国の金融経済危機から端を発した世界規模の景気後退が止まらない。日本経済の落ち込みもさらに激しさを増すであろう。■しかもこの状況の深さは、相当長く様相だが、浅く短く一刻も早い好転を、政治の責任で治めてもらいたい。■本町にとりまして、向こう10年を見据えた第4次海士町総合振興計画「島の幸福論」を掲げ、新たな「まちづくり」がスタートする。前計画のキンニャモニャの「変」の先に、どう灯りをとむか。今こそ悲観論と決別し、前進のときである。それが精神的・環境的豊かさにつながり、他地域に貢献する道でもある。■確かに、日本は今、地方再生や教育・年金・医療など様々な難問に直面するが、それでも「海士が好き」「海士に生まれて良かった」と答えを出すべくわれわれはもっと、自らの力と可能性に自信を持つことではないか。

(文責 波多紀昭)

